



Human City くまもと
活力あふれる
交流拠点都市を目指して

本市は、優れた個性を生かし、多様な都市機能の集積を図り、世界に開かれた人・物・情報の活発な交流拠点を形成します。また、未来を開く新しい技術や情報を活用し、多様な産業活動が活発に営まれ、国際社会の平和と繁栄にも貢献する都市を目指します。



水資源国際会議

国際交流



理解と友情から生まれる国際教育

国際交流を重点施策のひとつとして掲げる本市は、友好姉妹都市交流を始め、ホームビジット・ホームステイや通訳等民間活力を導入し、国際社会に即応した都市づくりを推進しています。また、今日の留学生を含む在熊外国人の近年にない増加に伴い、市民と在熊外国人の触れあいの場である国際交流会館の建設計画、ボランティア制度の確立等一層の国際化をめざします。

中国・桂林市

昭和54年10月友好都市締結以来、活発な交流が続く中、平成2年には高校生の桂林市派遣の外、桂林市の熊本桂林友誼館落成に併せて熊本市民友好の翼が派遣され、両市民の相互理解と友情を深めました。平成3年度も引き続き、青少年の相互交流等多様な交流事業が予定されています。



サンアントニオ市への少年野球チームの派遣

米国・サンアントニオ市

昭和62年12月姉妹都市締結以来、友好の輪が広がる中、平成2年には少年野球親善訪問団の派遣、大学生の交換留学等が実施され、平成3年度も市民レベルでの交流の輪が大きく展開されます。

独国・ハイドルベルク市

平成2年に開催された水資源国際会議には同市からも参加を得、平成3年度もこれまでの交流の実績を踏まえて友好交流を深めていくことにしています。



桂林市に建設された熊本・桂林友誼館

観

光



訪れてみたいまちづくり

九州の中央に位置する本市は、東に「阿蘇くじゅう」、西に「雲仙天草」の二大国立公園を望み、九州国際観光ルート of 要衝として国際色豊かな魅力ある都市へと変貌しつつあり、「国際観光モデル地区」さらには「国際コンベンションシティ」に指定されています。また九州の一大観光拠点として、年間560万人を超える観光客が訪れています。

豊かな観光資源

恵まれた自然と城下町としての歴史をもち、数多くの観光資源を有する本市には、日本三名城のひとつである熊本城をはじめ、清烈な地下水の湧く天下の名園「水前寺成趣園」、細川ガラシャの眠る「立田自然公園」、剣聖宮本武蔵が兵法五輪の書を著した「霊巖洞」（五百羅漢）、そして夏目漱石、小泉八雲、森鷗外、徳富蘇峰・蘆花など明治の文豪の文学遺跡など歴史的、文学的観光資源が数多く残されています。また、釣耕園、叢桂園、百梅園等歴史的文化的に貴重な史跡や庭園をはじめ、豊かな水や緑が残る島崎地区の新たな観光開発も進めています。

都市型観光への転換

観光意識や観光形態の変化に対して、本市では豊かな観光資源を生かしながら、利便性、快適性、さらには都市景観を含めた都市自体を観光の魅力とする都市型観光への転換を目指しています。熊本城を中心としたシンボルゾーンや長堀通りの整備をはじめ景観にあった電停表示塔や英文併記の案内板を設置しています。さらには熊本城内をきめこまかく案内するレディースガイドの導入等都市の魅力の向上とふれあいのある、心に残る観光地づくりを目指しています。

コンベンションの振興

このような豊かな観光資源と都市型観光を活かして、内外の各種大会、会議の誘致を図る一方、参加者への心の通った受け入れ体制の充実を促進しており、平成元年度は146件のコンベンションが

開催され、コンベンションシティとしての地位も向上しつつあります。

21世紀を目指した観光行動計画

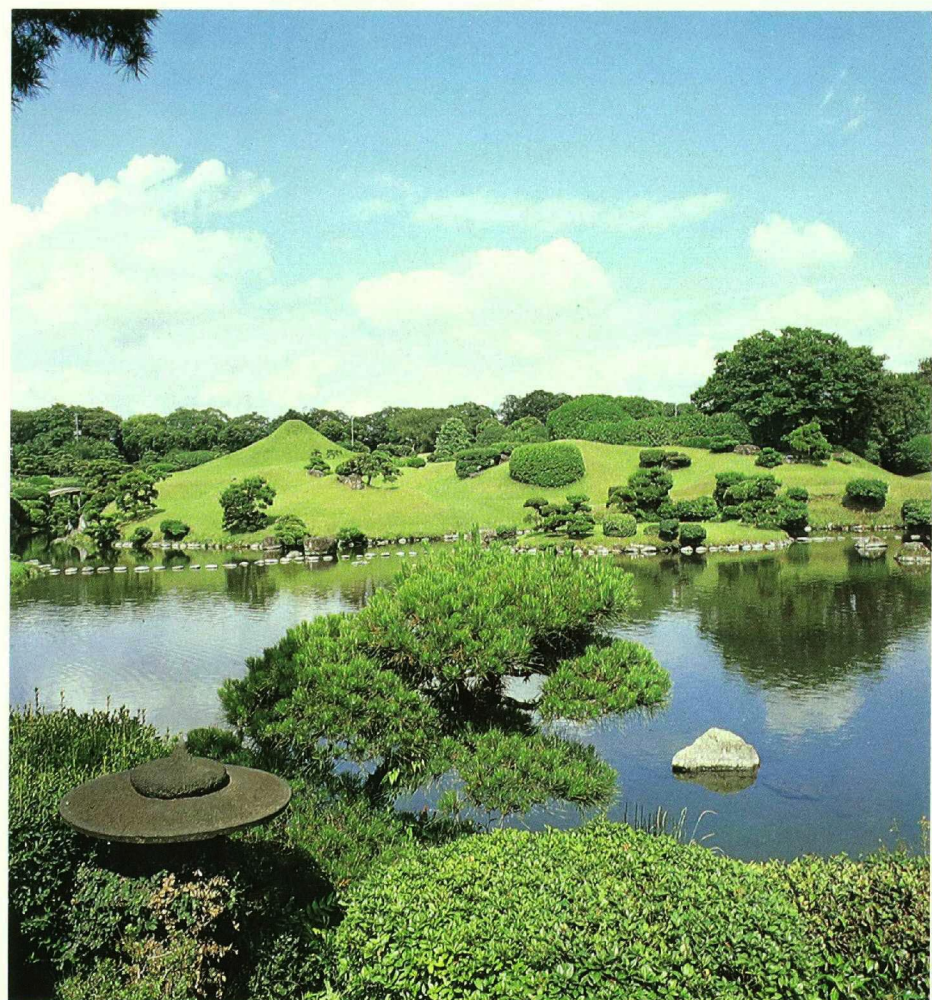
21世紀に向っての社会経済環境の変化と観光をとりまく環境の変化を予測し、新しい世紀に向けての魅力ある観光都市くまもとの観光アクションプログラムを策定しています。

観光人づくり

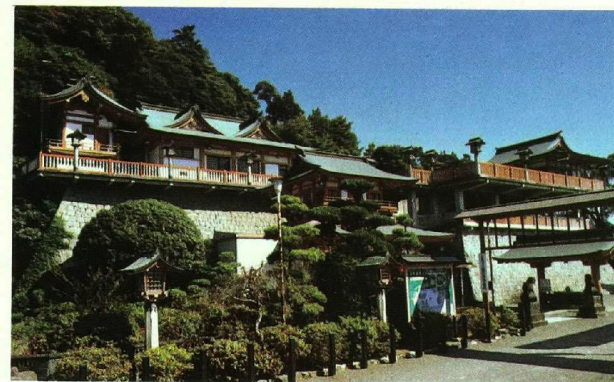
観光関連産業に従事する経営者から第一線で活躍する社員まで各業界ごとに経営問題・部下育成・接客接遇等について研修を実施し、受け入れ体制や顧客意識のより一層の充実を図っています。



立田自然公園「仰松軒」



水前寺成趣園



高橋稲荷神社



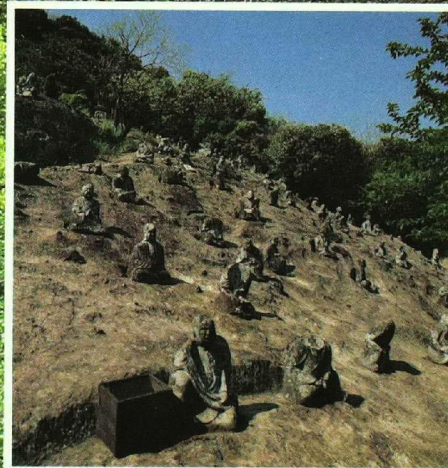
本妙寺



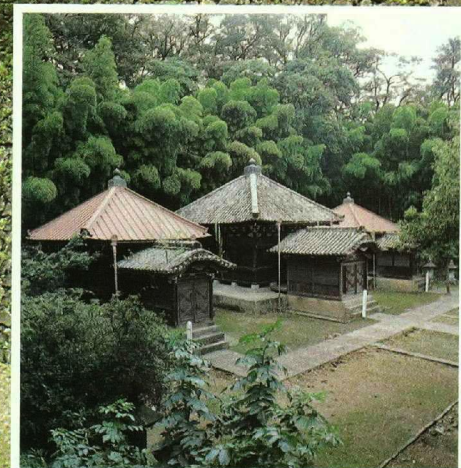
熊本城



森鷗外文学館



五百羅漢



北岡自然公園



武蔵塚公園

産業

本市は九州の中央に位置する地方中核都市として、第一次、第二次、第三次産業が一体となった地域密着型の経済構造により発展を続けています。

本市の産業は、出版・印刷・食品工業などの都市型工業や世界でも有数のＩＣ工場、そして商業都市として卸・小売業やサービス業などの高い集積によって安定的な成長水準を維持して来ました。

平成３年２月、周辺４町と合併し、市域面積が約1.6倍に広がり、各種産業資源の増大による産業振興の可能性が高まってきました。特に農地の拡大、海岸線の延長等、農林水産業における大きな発展が期待されています。

近年、内需型経済への移行や経済のソ

フト化・サービス化が進展する中で、本市経済は高速道路の整備・熊本港の建設、熊本空港の国際化など陸・海・空の交通網の充実やテクノポリス、ニューメディアコミュニティ、テレトピア構想の推進によって、流通拠点機能の拡充や高度情報化への対応を図りつつあります。

このような状況を背景に、本市は来るべき21世紀に向けて地域経済の活性化の実現を目指して、「新たな生活産業の育成」、「拠点性の強化」、「地場リーディング産業の育成」という３つの基本方向を柱として取り組んでいます。

中小企業

本市の中小企業は、全事業所の約99％を占めています。また、そこで働く従業

者数は全従業員の約81％（昭和61年事業所統計）を占めるなど産業活動に重要な役割を果たしています。

そこで、本市では地域経済活力の源泉である中小企業の活性化を図るため、全国的にも例を見ない中小企業局を設置し、中小企業振興施策を積極的に推進しています。

現在①中小企業の経営力強化、②地場リーディング産業の振興、③産業基盤の整備、④中小企業における人材の確保及び育成、⑤資金調達の円滑化、という５つの振興策にそって各種事業を積極的に展開しています。

近代街づくりが進む流通業務団地



あらゆる可能性は
新ビジョンから

商業

商業の発展が活気ある
都市づくりにつながる



本市の商業は、卸売業で県全体の年間販売額の65.6％、小売業で44.6％を占めており、順調に発展しています。特に小売業の商圏人口は100万人を越えるといわれ、商業は本市の基盤産業と言えるものです。

魅力ある商店街づくり

本市の商店街は、140余を数え、小売業、サービス業が集積する市民の生活拠点として重要な役割を果たしています。市では商店街づくりを支援するため、中小企業振興助成条例、共同施設助成金交付要綱に基づき、商店街が行う道路環境整備、アーケード、街路灯建設等の共同施設設置事業に対する助成を積極的に行っています。また、平成２年度は商店街づくりマニュアルを作成し、ソフト、ハード両

面からの商店街づくりの推進を図っています。

食の魅力強化

都市の魅力を考える上で、飲食の魅力アップは重要な視点の一つであり、食文化は都市の資源ともいえるものです。昨年にひきつづき魅力ある食文化の創造をテーマに、'90くまもとグルメフェアを熊本城二ノ丸催し広場で開催しました。また、飲食業界の発展を目標とした熊本市飲食業振興協会も設立されました。他に飲食店経営、店づくりに関するセミナー等も実施されています。

都市拠点施設の整備

最近では、地域住民の利便性を重視したコミュニティ施設の建設等が活発に行われています。地域に根ざした、街づくり

の視点にたった拠点施設の整備を図るため、地場産業振興、地場工芸品に親しむ場の提供を目的とした、くまもと工芸会館（仮称）の建設、並びに教育文化、地域の中小企業振興、福祉の発展向上等を

また、団地内の熊本市流通情報会館を中心として、セミナー、研修、経営相談、指導を行っており、企業経営の近代化、合理化を支援し人材育成や情報化を積極的に推進しています。

また、この会館には官民協同出資で設立された第3セクター方式の熊本本流通情報センターも入居し、広域流通ネットワーク構築、商店街POSシステム構築など地場企業の情報力を強化するため積極的な支援を行っています。

工業

本市の工業は、その多くが中小工業であり、食品工業を中心に出版・印刷、金属製品、衣服、家具等市民生活と関連の深い工業が大きなウェイトを占めています。

この中小工業の活躍が地域経済の活性化を図る上で大きな役割を担っています。そこで、中小工業の振興を支援し、地域経済の活性化を図るため次の施策を推進しています。

1. 経営力の強化

経営資源に限りのある中小工業を支援するため、地域のマーケティング情報・各種データベース情報の提供、経営相談・診断指導、経営セミナー等を実施しています。

また、企業の共同化を推進するため、業界との共催事業、融合化の支援事業、設備近代化及び組織化・高度化に対する助成を行っています。

2. 市場開発の支援

中小工業の振興には、地元の方々に地場の優れた中小企業の製品を愛用いただくことが重要です。このため市民及び関係業界に地場の製品を紹介し利用いただくため、地場産業振興フェアの開催、物産展、地場製品カタログの作成等を実施しています。

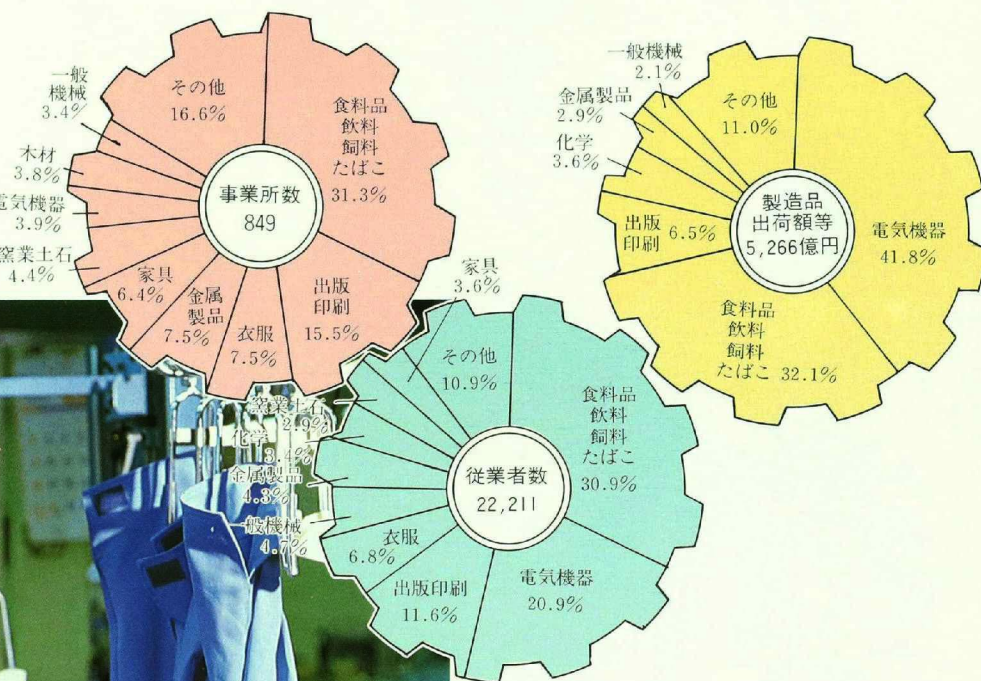
3. 食品産業の強化

本市において集積が高く他の産業と強い関わりを持ち、市民生活に密着し地域経済の活性化に大きな影響を与

える食品産業を地場リーディング産業として発展育成するため、食品工業の業種別組織活性化研究会や業界活性化事業、食品工業の再資源化の調査研究を実施しています。

4. 工業立地環境の整備

活力ある生産空間を整備することを目指して、周囲の環境にマッチし、生産・販売・消費者とのコミュニケーションが一体となって図れるモデルとなる食品工業団地づくりの計画・調査を行っています。



コンピュータによる型紙切抜機

縫製工場内部

新しい技術と生産力の融合が工業の活性化をうながす

農林水産業

都市農業の特性を活かした高生産性の確立

都市農業・漁業の振興

本市の農林水産業は、北西部の中山間樹園地地帯、西南部の水田地帯、東部の畑地帯からなり、野菜・米をはじめ畜産・花き・果樹など豊富な基幹作目を有した農業と有明海沿岸におけるノリ・魚介類の海水面漁業、更にウナギ・観賞魚等内水面漁業の水産業からなっています。

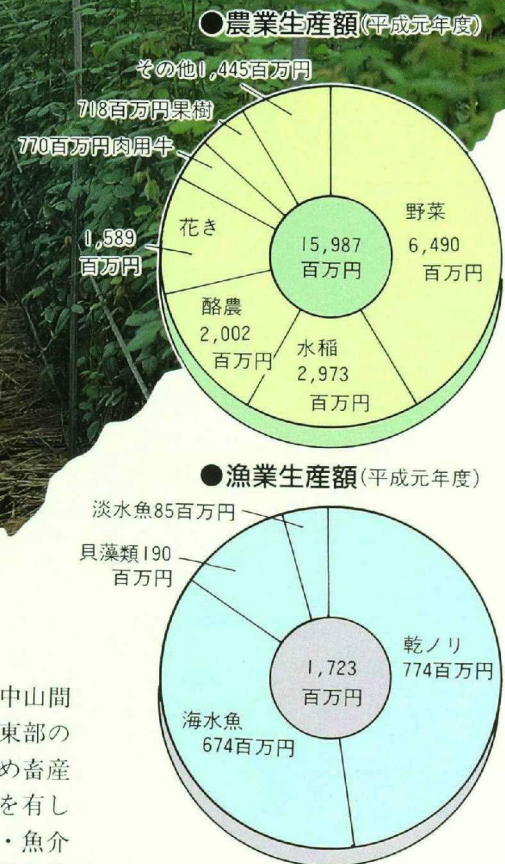
いずれも、立地的優位性、地域性を活かした特色ある経営が行われています。

しかしながら、農業は近年の厳しい諸情勢に加え、都市化の影響を強く受け、農地・農家戸数、基幹労働力の総体的な減少など都市農業特有の多くの問題を抱えています。

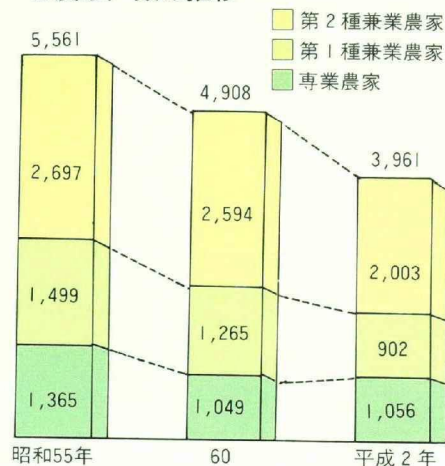
水産業は、依然気象、海況の影響を大きく受け、就労者の高齢化、価格の低迷

など厳しい環境におかれています。

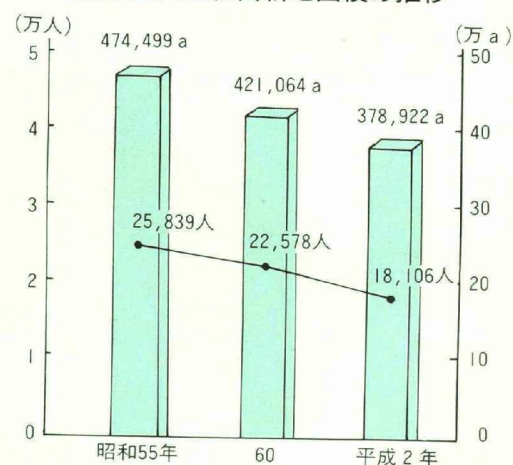
このような中で、都市農漁業の振興を図り、新たな時代への要請に応えるため、都市農業懇談会の設置、都市農業技術センター建設構想、先端技術の導入、ハイテク農業の育成、農産加工の振興、漁港・漁場の整備充実、栽培漁業の推進など各種事業を積極的に取り組み、都市農漁業の特性を活かした豊かで活力ある農林水産業の振興を図っています。



●農家戸数の推移



●農家人口と経営耕地面積の推移



のり摘み作業

Human City くまもと

風格ある

文化創造都市を目指して

本市は、先人が築いた優れた特色ある伝統・風土を市民の誇りとして大切に守り育み、風格ある歴史性豊かな都市を形成します。また、市民の豊かな創造力から多様で幅広い都市文化が生まれ、その新しい文化と伝統が調和した都市を目指します。

地域文化



Human City くまもと

地域の伝統と個性を生かし、
更に充実させるために

熊本城をはじめ、水前寺成趣園、千金甲古墳など、本市には歴史に培われた多くの文化遺産が大切に保存され、訪れる人びとに感銘を与えています。平成2年度から平成4年度にかけ東子飼町に残る武家屋敷旧細川刑部邸を熊本城三の丸に移築・復原し、平成5年度には、装いも新たに一般公開される予定です。

また、横井小楠、徳富蘇峰・蘆花など郷土ゆかりの先哲の顕彰と明治の文豪夏目漱石、小泉八雲の文学遺跡の保存にも努めています。

一方、文化施設である博物館をはじめとして、美術館、市民会館、産業文化会館、青年会館などでは、市民の各種文化活動や専門家による優れた芸術活動が展開されており、熊本の文化の向上に大きな力となっています。

平成2年4月に総合婦人会館・カルチャーセンターが開館し、婦人の文化活動の拠点として幅広く利用されています。

市制100周年の平成元年にはじめたアンデパンダン方式の市民美術展も盛況で平成2年度第2回市民美術展を熊本市総合体育館・青年会館で開催し、市民の文化志向を高め、「生活の中の文化」という位置づけに努めています。

このような都市文化の背景のもと、さらに文化財を愛護する気持ちを育てるとともに、地域に根ざした個性ある市民文化の育成振興に努めています。



市民美術展

市内指定文化財

	国指定	県指定	市指定
建造物	3	11	18
美術工芸品	9	53	11
無形文化財	—	3	—
無形民俗文化財	—	1	3
史跡	3	5	22
史跡名勝	1	2	—
天然記念物	5	—	3
計	21	75	57



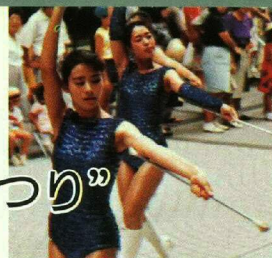
熊本城宇土櫓

火の国まつり



Human City くまもと

“燃えるくまもと、火の国まつり”



8月11日から13日の3日間、真夏のくまもとをひときわ熱く燃えさせた第13回「火の国まつり」は、新たな百周年へ向けての第一歩として、街を熱気と興奮に包みこみ、例年にもまして国際色豊かなまつりとなりました。

初日は、まつりのシンボル“希望の火”を若人の手でリレーする「希望の火リレー」で始まり、音楽パレードや手づくりの子どももこしが市内目抜き通りいっばいに大行進を繰り広げ、県内外の民俗芸能を一堂に集めた「郷土芸能の祭典」、熊本城二の丸広場でのオープニング・セレモニーと多彩な催しでまつり気分を一気に盛り上げます。

2日目は、吹奏楽と華道を踊りの祭典「音楽フェスティバル」に続き、まつり

のハイライト「おてもやん総おどり」が市内の目抜き通りで繰り広げられます。おなじみのおてもやんのメロディーと激しいサンバのリズムが街中に響きわたり、26,000をこえる踊り手はもとより、観光客などの飛び込み連も大賑わい、また留学生連、国際ユースサッカー連等の参加もあって国際色豊かにまつりは最高潮に達します。

まつりのフィナーレは最終日の13日、下江津湖を主会場とする「花火大会」。真夏の夜空を彩る“大輪の花”の、光と音の饗宴で締めくくります。

この3日間の人出は98万人。今や九州における一大イベントとして定着し、市民はもとより多くの観光客が訪れるまつりとなっています。



江津湖

都市景観の創出



Human City くまもと

人に調和した個性と魅力ある都市景観づくり



シャワー通り

都市景観は視覚的に都市を印象づける大きな要素であり、その都市の歴史、風土、文化の表われといえます。

本市では「誰もが住みたい」、「訪れてみたい」と思えるような都市づくりに計画的に取り組むため、昭和63年3月に「熊本市都市景観基本計画」を策定しました。

この基本計画の具体化の第1歩として花畑公園前のシンボルロード事業をはじめ、熊本城周辺の歩道や橋などの景観整備を行っています。今後も、本市の歴史や文化、地域の特性を生かした景観整備を積極的に進めることにしています。

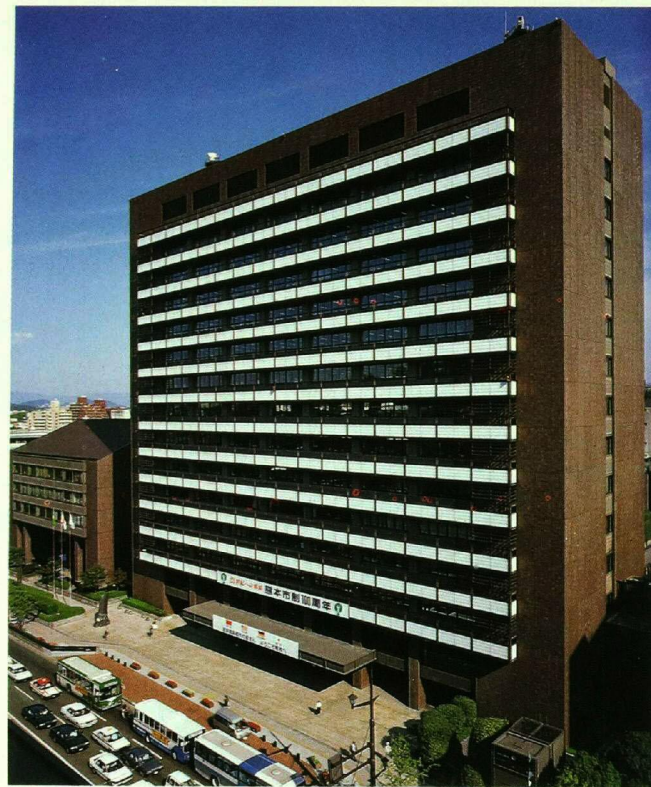
また、市民や事業者の皆さんの広範な参加協力を得て、総合的に都市景観の形成を進めるため、平成元年10月には「熊本市都市景観条例」を施行しました。

この条例は、市民、事業者、行政の三者がそれぞれの責務に基づいて創意を発揮すること、景観形成のための地区指定等の諸制度を活用すること、市民のまちづくり活動を推進することを大きな柱としています。

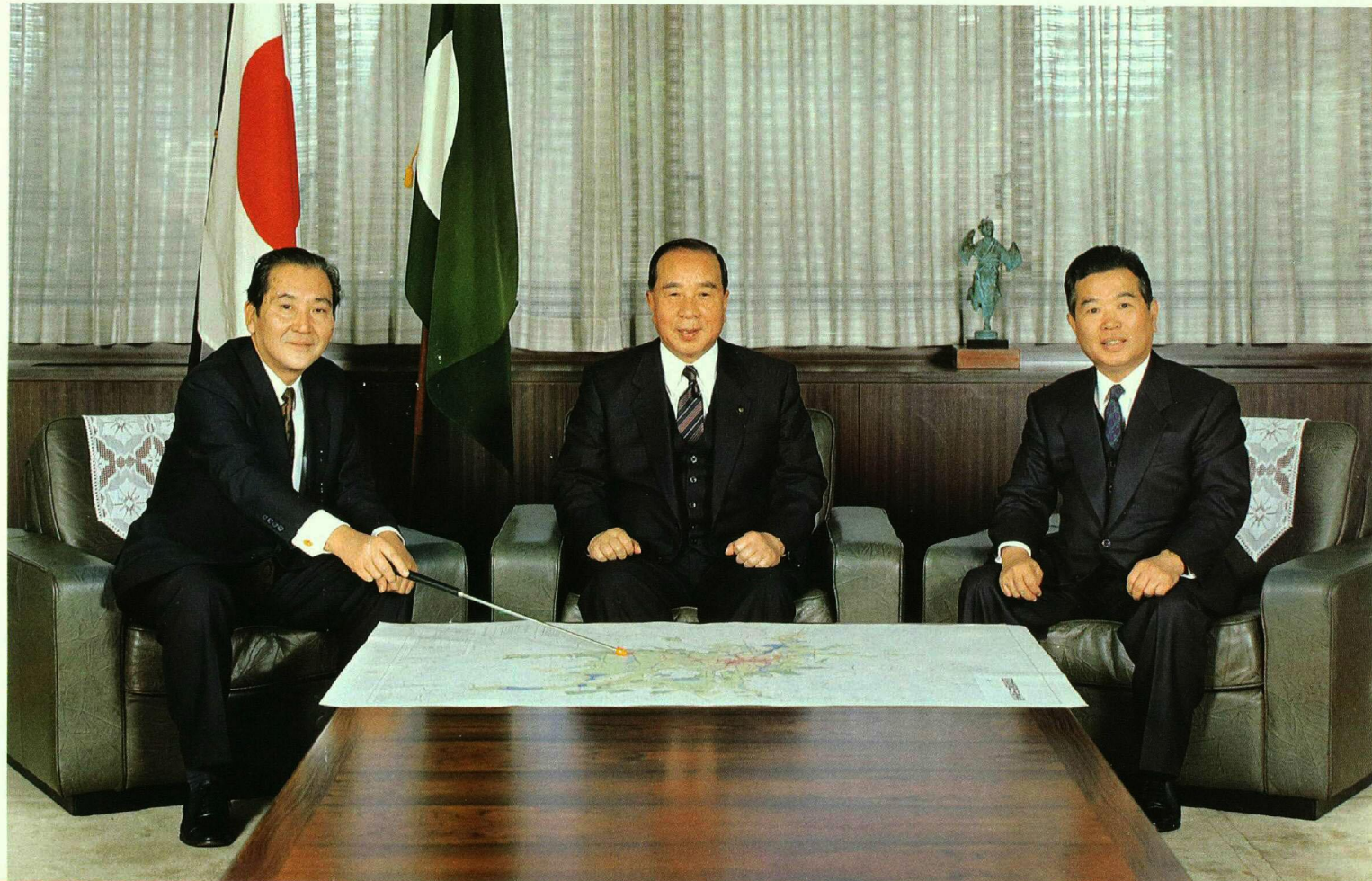
街は私たちが快適に文化的に生活する場であり、子孫へ伝える貴重な資産でもあります。このために、基本計画や条例の趣旨をいかに発揮して、熊本らしい魅力ある都市景観を市民と行政の共同作業の中で積極的につくりあげていくことにしています。



熊本城からみた熊本市街



左から御厨一熊助役、田尻靖幹市長、吉田紀生収入役

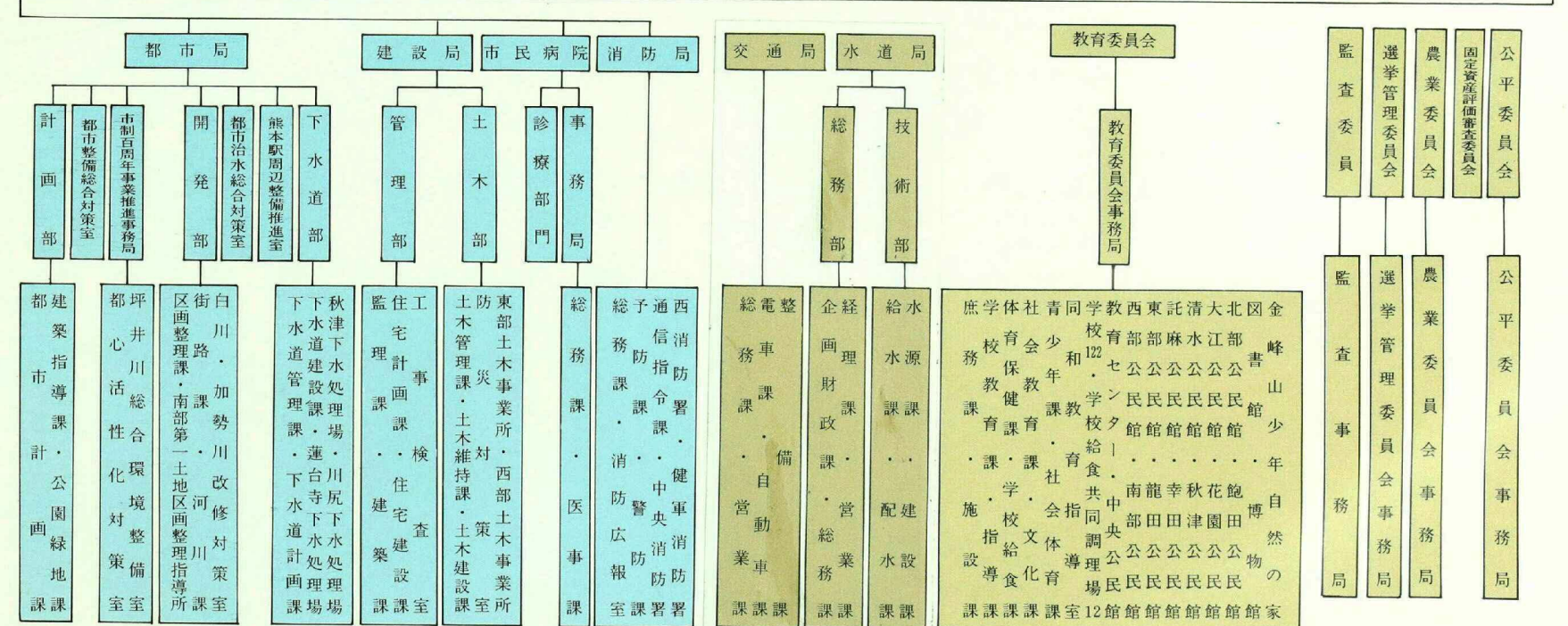
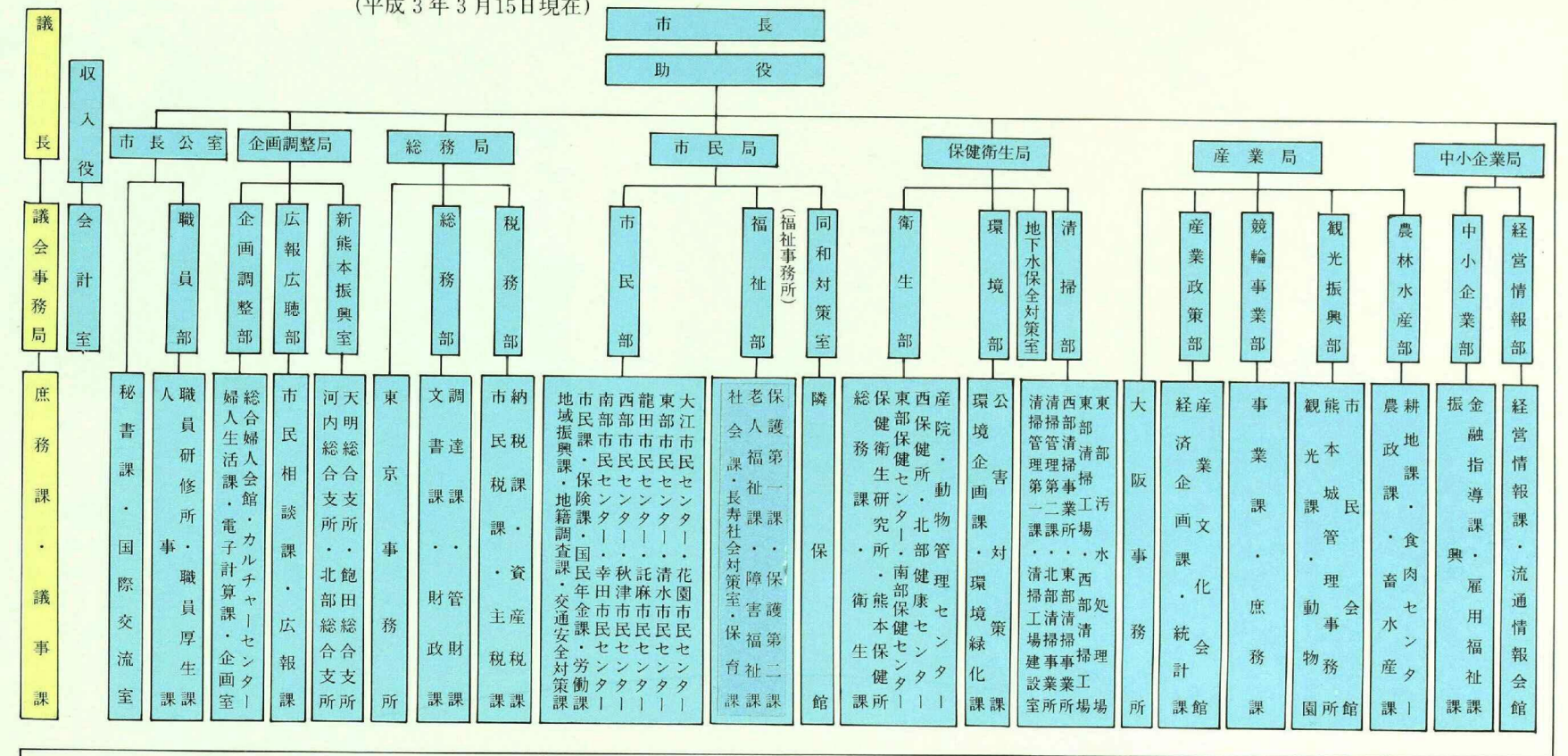


●歴代市長

代	氏名	就任年月日	退任年月日
第1代	杉村大八	明治22. 5. 6	明治26. 7. 9
2	松崎為己	" 26. 9. 15	" 30. 8. 2
3	辛島格	" 30. 9. 13	大正 2. 1. 20
4	山田珠一	大正 2. 4. 2	" 3. 10. 10
5	依田昌兮	" 4. 1. 14	" 6. 9. 3
6	佐柳藤太	" 6. 11. 20	" 10. 11. 19
7	高橋守雄	" 11. 1. 19	" 14. 7. 13
8	辛島知己	" 14. 9. 14	昭和 4. 7. 4
9	山田珠一	昭和 5. 2. 5	" 9. 4. 17
10	山隈田康	" 9. 5. 14	" 17. 5. 13
11	平野龍起	" 17. 6. 25	" 20. 8. 10
12	石坂繁	" 20. 10. 4	" 21. 3. 11
13・14	福田虎亀	" 21. 6. 14	" 23. 2. 9
15	佐藤真佐男	" 23. 4. 7	" 27. 3. 7
16	林田正治	" 27. 3. 21	" 31. 2. 23
17・18	坂口主税	" 31. 3. 16	" 38. 1. 4
19・20	石坂繁	" 38. 2. 15	" 45. 11. 26
21~24	星子敏雄	" 45. 12. 20	" 61. 12. 6
現市長	田尻靖幹	" 61. 12. 7	在任中

熊本市行政機構図

(平成 3 年 3 月 15 日現在)



市議会



Human City くまもと

市議会は、市民から選ばれた議員52名で構成されています。会派としては、自民党（19名）、公明党（8名）、社会党（7名）、市民クラブ（7名）、共産党（3名）、政策集団・二十一世紀クラブ（3名）、民社党（2名）、熊本クラブ（1名）、くまもと千人クラブ（1名）、熊光クラブ（1名）の10会派が結成されています。

会議は、年4回開かれる定例会と必要がある場合に開かれる臨時会があります。内部の審査機関としては、常任委員会と特別委員会があります。常任委員会は総務・教育民生・保健衛生・経済・建設・公営企業の6委員会に分かれ、所管部門の事務を調査し、議案・陳情などの審査を行います。特別委員会は必要に応じて議会の議決により設置されますが、付議された事件を審査するもので、現在、議会運営・総合都市調査・環境整備の各特別委員会があります。



矢野昭三議長



佐藤公平副議長

●歴代市議会議員

代	氏名	就任年月日	退任年月日	代	氏名	就任年月日	退任年月日	代	氏名	就任年月日	退任年月日
1	有馬源内	明治22. 4.26	明治24. 1.21	13	佐藤真佐男	昭和22. 6. 9	昭和23. 4. 7	25	落水清弘	昭和46. 5.20	昭和48. 6. 6
2	興津景章	" 24. 1.22	" 28. 5.13	14	大塚勇次郎	" 23. 6. 5	" 26. 4.29	26	古川国雄	" 48. 6. 6	" 50. 4.30
3	河原惟親	" 28. 5.14	" 31. 5.22	15	大塚勇次郎	" 26. 5.15	" 30. 4.30	27	紫垣正良	" 50. 5.16	" 52. 6. 4
4	吉永為己	" 31. 5.23	" 36. 2. 5	16	兼坂安次	" 30. 5.21	" 34. 4. 8	28	上田堅太	" 52. 6. 4	" 54. 4.30
5	山田珠一	" 36. 2. 6	" 37. 4.30	17	打出信行	" 34. 6.12	" 36. 3.24	29	島永慶孝	" 54. 5.14	" 56.12. 8
6	吉永為己	" 37. 5.27	大正 2. 4.30	18	寸坂幸夫	" 36. 3.24	" 38. 4.30	30	藤山増美	" 56.12. 8	" 58. 4.30
7	林千八	大正 2. 5.10	" 6. 4.30	19	阿部次郎	" 38. 5.18	" 40. 3.18	31	宮原光男	" 58. 5.18	" 60. 9. 6
8	山隈康	" 6. 5.15	" 10. 9.30	20	井上常八	" 40. 3.18	" 40.12. 7	32	大石文夫	" 60. 9. 6	" 61.12.15
9	迫源次郎	" 10.10.14	" 14. 9.30	21	石井辰雄	" 41. 7. 4	" 42. 4.30	33	内田幸吉	" 61.12.15	" 62. 4. 3
10	山隈康	" 14.10.12	昭和 9. 5. 7	22	阿部次郎	" 42. 5.20	" 43. 7. 3	34	西村建治	" 62. 5.22	" 63.12.16
11	平野龍起	昭和 9. 5. 8	" 17. 6.14	23	坂梨日露	" 43. 7.13	" 45.12. 4	35	村上春生	" 63.12.16	平成 2. 3.26
12	佐藤真佐男	" 17. 7.23	" 22. 4.29	24	黒田弥一郎	" 45.12. 4	" 46. 4.30	36	矢野昭三	平成 2. 3.26	在任中

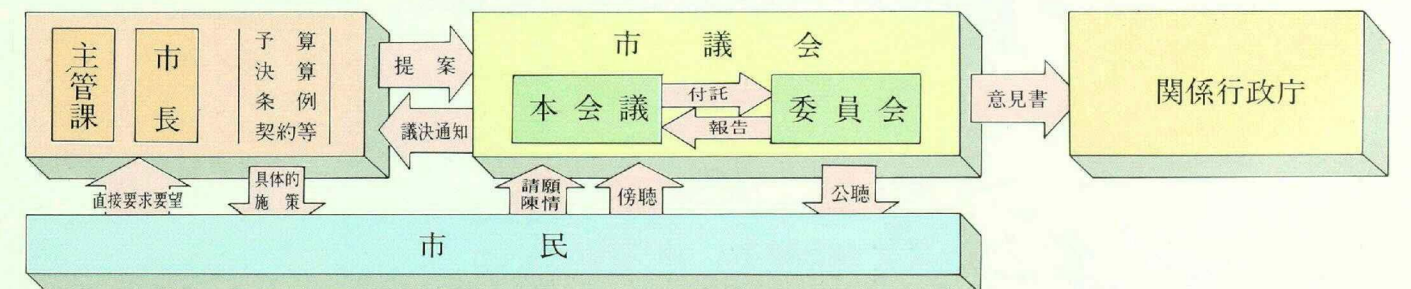
●歴代市議会副議長

代	氏名	就任年月日	退任年月日	代	氏名	就任年月日	退任年月日	代	氏名	就任年月日	退任年月日
1	下田一直	明治22. 4.26	明治24. 1.21	16	平野龍起	昭和 4.10.12	昭和 9. 5. 7	31	岩尾恵	昭和44. 9.13	昭和46. 4.30
2	下田耕造	" 24. 1.22	" 31. 5.22	17	橋本寿七	" 9. 5. 8	" 17. 5.20	32	阪本富	" 46. 5.20	" 48. 6. 6
3	片山甚十郎	" 31. 5.23	" 32. 2. 7	18	西郷一恵	" 17. 6.11	" 22. 4.29	33	荒木昇	" 48. 6. 6	" 50. 4.30
4	林定男	" 32. 2. 8	" 36. 2. 5	19	大塚勇次郎	" 22. 6. 9	" 23. 6. 5	34	藤山増美	" 50. 5.16	" 52. 6. 4
5	出田彦太郎	" 36. 2. 6	" 36. 2.11	20	加川恒次	" 23. 6. 5	" 26. 4.29	35	矢野昭三	" 52. 6. 4	" 54. 4.30
6	園部交雅	" 36. 2.12	" 36. 5.11	21	北利民	" 26. 5.15	" 28. 9. 5	36	上妻重蔵	" 54. 5.14	" 56.12. 8
7	板垣正軌	" 36. 5.12	" 37. 2.12	22	上野勉	" 28. 9.25	" 30. 4.30	37	田尻武男	" 56.12. 8	" 58. 4.30
8	有働格四郎	" 37. 2.13	" 40.11. 4	23	森光吉	" 30. 5.21	" 32.12.28	38	白石正義	" 58. 5.18	" 60. 9. 6
9	板垣正軌	" 40.11.14	" 42. 1.27	24	吉村貞次	" 34. 6.12	" 35. 3.21	39	北口政義	" 60. 9. 6	" 61.12.15
10	河田巖	" 42. 1.28	大正 2. 4.30	25	坂梨日露	" 35. 3.21	" 37. 7. 9	40	吉村潔	" 61.12.15	" 62. 4.30
11	井場熊喜	大正 2. 5.10	" 6. 4.30	26	吉村貞次	" 37. 7. 9	" 38. 4.30	41	竹本裕勇	" 62. 5.22	" 63.12.16
12	峽謙	" 6. 5.15	" 7. 3.10	27	吉井辰雄	" 38. 5.18	" 41. 7. 4	42	村上裕人	" 63.12.16	平成 2. 3.26
13	藤野乱	" 7. 3.11	" 10. 9.30	28	吉村貞次	" 41. 7. 4	" 42. 4.30	43	佐藤公平	平成 2. 3.26	在任中
14	水上誠規	" 10.10.14	" 14. 9.30	29	佐藤寿子	" 42. 5.20	" 44. 3.25				
15	河田巖	" 14.10.12	昭和 4. 9.30	30	古川国雄	" 44. 3.25	" 44. 6.28				

●市議会議員（平成3年1月1日現在）

氏名	会派	氏名	会派
矢野昭三	自民党	井上義治	社会党
佐藤公平	市民クラブ	吉田精一	"
落水清弘	政策集団・二十一世紀クラブ	角田勝浩	公明党
下田耕士	くまもと千人クラブ	中沢誠	"
奥田光弘	熊本クラブ	中村徳生	自民党
鈴木昌彦	民社党	竹本勇	"
家入安弘	社会党	嶋田幾雄	"
松江昭	熊光クラブ	大石文夫	"
磯道徳	公明党	村上裕人	"
西泰史	"	西村建治	市民クラブ
諸熊文雄	自民党	西田続	"
吉見輝雄	"	岩下恵治	共産党
荒木あきひろ	"	森田粹彌	社会党
江藤正行	"	佐々木亮	公明党
内田三千夫	市民クラブ	田尻武男	自民党
山内光昭	"	紫垣正良	"
益田牧子	共産党	島永慶孝	"
河上洋子	社会党	村上春生	"
竹口博己	公明党	宮原光男	"
亀井省治	"	藤山増美	市民クラブ
荒木哲美	自民党	白石正義	政策集団・二十一世紀クラブ
主海偉佐雄	"	村山義雄	"
伊形寛治	"	沢田一郎	共産党
藤本栄次	"	塩沢弘規	社会党
宮原正一	市民クラブ	中山久	"
本田光夫	民社党	中西法久	公明党

●市議会のしくみ



●常任・特別委員会（平成3年1月1日現在）

名称	定数	所管事項
総務委員会	9	市長公室、企画広報部、総務局、会計室、消防局、選挙管理委員会、監査委員、公平委員会の所管に属する事項、他の常任委員会の所管に属しない事項
教育民生委員会	9	市民局、教育委員会の所管に属する事項
保健衛生委員会	8	保健衛生局の所管に属する事項
経済委員会	9	産業局、中小企業局、農業委員会の所管に属する事項
建設委員会	9	都市局、建設局の所管に属する事項
公営企業委員会	8	水道局、交通局の所管に属する事項
議会運営委員会	12	議会運営に関する事項についての審査
総合都市調査特別委員会	13	都市圏、都市整備及び国際化に関する調査
環境整備特別委員会	13	自然環境、都市景観及び観光政策に関する調査